

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1170202400
法人名	株式会社 矢嶋商店
事業所名	グループホームあすか東川口
所在地	〒333-0811 埼玉県川口市戸塚1-13-15 (電話) 048-290-5013

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年8月25日

【情報提供票より】(平成20年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての1階～4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円・74,000円	その他の経費(月額)	32,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,300円			

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川口誠和病院・南波歯科医院・入倉クリニック(訪問診療)
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、駅から徒歩3分の住宅街にあり交通の便が良く、家族の面会にも便利な好立地である。コンビニエンスストアがホームを出てすぐの所にあるため、利用者は希望に応じ一人または職員の付き添いで買い物に出かけ易い。日々の生活では利用者の意見を引き出す工夫をし、食事のメニュー作りもユニークで、アイデアを活かして楽しみながら皆で決めている。また、利用者一人ひとりの能力を最大に活かす場面として、調理に時間をかけ、皆が生き生きとした表情で調理に関わっている。利用者の意思を尊重した生活リズムで、地域に密着した理念に基づき生活が営まれているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域との関わりについては現在模索中であり、近くは今年の秋ごろにホームの駐車場を利用したフリーマーケットを行い、地域に呼びかけることを企画している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価については各ユニットリーダーと職員に意見を聞きながら管理者がまとめあげている。また、外部評価の目的を全職員に説明し、日々の介護の質の向上のために皆で取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、地域包括支援センター担当者、家族代表、民生委員、自治会長などが関わるようになった。会議では意見を聞きサービス向上に努めているが、より活発に意見が交わされ、より充実した会議を通し地域に溶け込んだホームとしての取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの意見や要望があった際は迅速に対応できるように、要望を受けた職員は速やかにリーダーや管理者に報告・相談し、内容によりスタッフ会議で検討した上で対処している。また、家族の面会の際はコミュニケーションをとりながら要望を言い易い雰囲気を作るように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の方に出会った際は挨拶や会話を交わすようにしているが、周辺は年齢層も若く日中留守のお宅が多い。事業所としては、自治会や地域の行事に参加したり、ホームでの行事などを考えており、地域に関わって行きたい意欲がある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で自立した生活が続けられるような支援」を内容に盛り込んだ6つの理念のもと、地域との連携や自立を目指した支援が暮らしの中に自然に活かされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の重要性を会議や日常の業務の中で常々伝えており、職員はそのことを踏まえ、利用者が地域で生活感を感じながら自由に暮らすことができるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々とは挨拶を交わしたり話す関係は築かれている。今年の秋ごろにはホーム駐車場でフリーマーケットを実施する計画を立てており、近隣の方に声をかけ交流を深めるきっかけ作りをしたいという狙いがある。		現在企画しているホーム駐車場を活用したフリーマーケットを是非実現し、地域との交流のきっかけ作りに期待したい。また、自治会との関係作りや地域行事への参加などにも目を向け、地域の一員としての生活基盤を作っていくことも期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が外部評価の目的について職員全員に伝えている。今回の評価の項目チェックについてはユニットリーダーに聞き、職員の意見も取り入れながら管理者が作成しており、ケアの質の向上のために皆で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では意見を聞き、サービスの向上を考えて行っているが、普段から家族等の要望や意見について迅速に対応しているため、会議で運営に反映されるような意見が活発に出されるまでには至っていない。		定期的に会議を開催し、参加者それぞれが活発に意見を出し合い、幅広く運営に反映できるようになることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課や高齢福祉課の窓口に出向き、何かあるごとに相談するようにしながら連携を図り、サービスの質の向上につながるよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に利用者の様子を記入したお知らせを同封するとともに、家族の面会時でも状況を報告しており、面会に来れない家族には電話で話している。なお、薬の変更や体調の変化があるときは直ぐに電話で連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望を受けた職員は、すぐにリーダーや管理者に報告している。たとえば散髪の実望などは日勤帯に引き継がれ対応する。また、家族の面会時には利用者の様子を報告するだけでなく、実望なども聞くように心がけている。苦情は苦情台帳に記載し、スタッフ会議で検討し、迅速な対応をするようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット担当制にして職員を配置することで顔馴染みの関係を築いている。また、どの職員でも緊急時に対応できるよう両ユニットに定期的に入り、利用者の状況を把握できるようにし、職員の異動時の影響にも配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修や中堅職員を対象とした外部研修に参加している。また、県の社会福祉協議会で実施している研修、ケアマネジャーの研修などは出勤扱いとなり、交通費も支給されることから参加しやすく、希望等に合わせて順次参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流を持ち、利用者の行事招待や職員の交換研修を行っている。また、同系列のグループホームにも研修に行き、参加した職員には気づいたことなどを他の職員に発表してもらい情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に必ず1回は見学、1回は自宅訪問することで顔馴染みになるように心がけている。場合によっては入居してから家族に宿泊して頂いたり通って頂きながら、徐々に馴染んでいけるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を家族と思い、悩みを聞いたり、時には自分の悩みを相談したりしながら支えあう関係を築いている。家事、主に調理では利用者から教わる事が多く、生活の中で思いを共感できるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメント時だけに限らず、利用者の好むこと好まないこと、生活歴や意向等を日々の生活の中でも把握に努め、利用者を尊重しながら本人の希望に沿った暮らしを送れるように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>心身機能の維持だけを目的とした計画ではなく、利用者一人ひとりの生活歴や性格を踏まえ、「何ができるか」に着目し、利用者の力を活かしていけるような計画を取り入れて作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しの他、状態が変わった際はスタッフ会議で検討して見直し、その内容を共有して日々の介護につなげている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の状況に応じ、必要時には職員が通院に付き添う等、できるだけ要望に沿うよう柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、内科・脳神経外科の医師の往診を受けている。他の専門医による受診が必要になる場合は職員が対応している。また、往診医は24時間連絡可能なため家族も安心できる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い時期から家族、ホーム、かかりつけ医との間で、どのように対応していくか話し合いを重ね、方向性を定めて共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや誇りを傷つけないように接することを徹底し、定期的に会議で振り返りを行うことで気の緩みがないように努めている。また、利用者が一人ひとりの歴史を持っている存在であることを常に意識し、尊厳を守っている。なお、記録物は慎重に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り皆で食事すること以外、外出や日課もできるだけ本人の生活ペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことに意欲的である。献立を事前に決めることなく、本人の要望を引き出し、お鍋の日、オープンの日、などテーマを設けて楽しめる工夫がされ、ユニット別に利用者と職員と一緒に決めている。また、利用者と職員が共に食事に参加し、楽しい雰囲気の中、利用者の食も進んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴できるようにしている。介助が必要な利用者には、本人が入りたいタイミングで介助している。入浴を拒む場合は無理強いせず、清潔保持のために清拭で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人の利用者に対して、週に1回個別で職員が対応している。部屋で話をしたければ一緒に話につき合い、外出したければ付き添う等気晴らしをしながらも、本人の要望を叶えられるように努め、できるだけ張り合いのある生活になるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人で出かけた場合は、家族の了承と、一人で信号を安全に渡れる等最低条件を満たしていれば、外出することができる。なお、買い物に行く近所のコンビニエンスストアにも理解していただいている。また、職員と一緒に食材の買い物に行くなど、出来るだけ戸外に出かけるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初、玄関は開錠されていたが、構造上死角になることから安全面に配慮し施錠している。ただし、声をかければ開錠し自由に入出入りできるようにするなど、安全に配慮しながら閉塞感のないように努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な時間帯や状況を想定し日ごろから確認するとともに話し合いの場をもち、職員も災害時のやるべきことを理解している。また、実施した防災訓練については記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食を楽しむことを重視しているので献立は当日に決まるが、職員の中に栄養士が2名いるため献立表にそれぞれの食品群が携れているかチェックされ、記録もされている。また、水分を十分に確保できるように留意し摂取量も記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4階建てで1階と4階が職員のための事務スペースと共用空間である。リビングと食堂が一緒にあるが、調理するところを眺めることができ、利用者はリビングの家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごすことが多い。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には内鍵があり、利用者は寝るときに鍵をかけ安心して休めるようになっている。なお、緊急時は職員が外から開けられる。また、居室には自由に好きなものを持ち込むことができ、心地よく過ごせるようにしている。中には、トイレがついている部屋もある。		